

政策 7 文化・観光・スポーツ

交流が広がる魅力的なまちを目指します

① 現状と課題

文化芸術、観光、及びスポーツなどの地域資源の効果的な活用は、交流人口や民間投資の拡大、雇用機会の創出等に結びつき、本市の「にぎわい」創出に大きな波及効果をもたらします。

我が国の訪日外国人旅行者数は、2024年(令和6年)は年間で3,686万人と過去最高を更新するなど、全国的にインバウンドを見据えた観光施策が推進されています。本市では、「遠州三山」をはじめとする地域の歴史文化資源を活かした催しなどが着実に実を結び、観光交流客数も増加傾向にあります。一方で、今後の方向性として、市内により大きな経済効果をもたらすためには、宿泊を伴う滞在型観光や周遊の促進が大変重要となっております。

こうした中、近年の文化財を取り巻く状況にあっては、観光資源としての活用も含めた、地域の魅力向上や経済効果を期待する流れがあります。一方、人口減少・少子高齢化に伴い、文化振興や伝統芸能、文化財保護の担い手不足が課題であり、本市でも文化への関心を高め、将来の担い手となる人材を育成していくことが求められています。

また、スポーツを取り巻く環境は、子育て世代をはじめとする成人のスポーツ実施率が低下し、スポーツ離れが懸念されています。一方で近年は、新型コロナウイルス感染症や東京オリンピックでの経験から、スポーツがまちづくりの中で果たす役割に対し、期待を抱く声が大きくなっています。そうした中、スポーツの持つ力は、人々の楽しさや喜び、教育などスポーツそのものが有する価値に加え、地域活性化や健康長寿社会の実現、経済波及効果、国際理解の促進など、持続可能なまちづくりにとって多くのポテンシャルを秘めています。本市では、「さわやかアリーナ袋井市総合体育館」等の利用者数や、幼稚園、保育所、認定こども園等、小・中学校への団体やプロチーム等からの派遣指導の増加など、スポーツと日常生活の関わりが強くなっており、スポーツが持つ多面的な機能を活かした交流の推進により、地域の「にぎわい」の創出が期待されています。

さらに、中学校部活動の地域展開に関しては、受け皿の拡大はもとより、地域や地元企業など多くの人に関わるプラットフォームを構築し、持続可能な「部活動の地域展開」を進めていく必要があります。

取組と基本方針

取組 1. 文化芸術の振興と戦略的な観光の推進

1. 文化・芸術の振興と郷土の歴史資源の保存・活用
2. 袋井ブランドの活用
3. マーケティングの推進
4. 担い手の充実と育成

取組 2. スポーツを活かした交流の促進

1. スポーツを楽しむ機会の充実
2. 多様なスポーツを支える場と人の充実
3. スポーツの魅力による地域活力の創出

政策指標

[]内の矢印は、それぞれ「上げていくことを目指す指標」、「維持していくことを目指す指標」、「下げていくことを目指す指標」を示す

指標名(単位)	現状値 年度	目標値 年度	最終目標値 年度
「文化芸術や地域の歴史・伝統文化に触れる機会があるまち」だと思う市民の割合(%) [↗]	42.0 2025年度	47.0 2030年度	52.0 2035年度
「特産品や神社仏閣、スポーツ・音楽イベントなどでにぎわい、交流が盛んなまち」だと思う市民の割合(%) [↗]	58.3 2025年度	63.3 2030年度	68.3 2035年度
「スポーツをしたり・応援したりする機会が多いまち」だと思う市民の割合(%) [↗]	49.0 2025年度	54.0 2030年度	59.0 2035年度

現状と課題

文化活動は心ゆたかな人づくりに資するものでありながら、文化芸術に対する市民の興味・関心や、文化財に対する地域住民の意識は決して高くありません。加えて、文化芸術や伝統芸能、文化財保護の担い手が高齢化、減少していることから、市民が文化に気軽に親しむことができるよう機会の充実を図るほか、環境整備を整えるなどの対応により、文化財については、改めて地域資源として光を当て、人々の交流促進や観光資源として活用を図るとともに、これまで以上に適切な保存に努めていく必要があります。

2024年(令和6年)の訪日外国人旅行者数が過去最多を更新する一方で、本市を含む静岡県へのインバウンド観光客は依然として限定的な状況にあります。インバウンドを含めた観光誘客の推進には、訪れる方々の期待を上回る観光体験や観光コンテンツの造成・提供が重要です。本市を訪れる観光客の多くは安近短少(安く、近く、短期間に、少人数で)の傾向が強く、身近で手軽に楽しめる魅力が評価されていますが、今後は、より大きな経済効果をもたらす滞在型観光や周遊促進により、稼ぐ観光への進展が求められます。

このため、「遠州三山風鈴まつり」や「可睡斎ひなまつり」など本市の歴史的・文化的資源を活かした観光コンテンツに対して、首都圏など県外での認知度を高める取組や「小笠山総合運動公園エコパ」にスポーツ観戦やアーティストライブなどで来訪する年間100万人を超える方々をターゲットとした観光周遊施策の検討、「たまごふわふわ」など名物となる食のコンテンツ開発や定着化、新たに整備された「うみてらすDORI(同笠海岸)」と市内観光地との間で相互に来訪を促し地域全体の魅力を高める取組など、明確なターゲットと目標を定め、観光振興に取り組むことが求められています。

さらに、観光協会会員や観光ボランティア等の地域人材の参加を広げ、持続的に地域観光を支えていく主体や人材の確保・育成に取り組むことが望まれます。

取組指標

[]内の矢印は、それぞれ「上げていくことを目指す指標」、「維持していくことを目指す指標」、「下げていくことを目指す指標」を示す

指標名(単位)	現状値 年度	目標値 年度
文化関係施設(月見の里学遊館、メロープラザ、歴史文化館、郷土資料館及び近藤記念館)の利用者数(人/年) [↗]	138,230 2024年度	182,900 2030年度
文化財関係団体の数(団体) [↗]	19 2024年度	22 2030年度
観光交流客数(千人/年) [↗]	4,946 2024年度	6,000 2030年度
宿泊客数(外国人含む)(人/年) [↗]	90,427 2024年度	110,000 2030年度
SNS のアクセス数(観光協会)(千件/年) [↗]	1,173 2024年度	1,650 2030年度

基本方針

1. 文化・芸術の振興と郷土の歴史資源の保存・活用

「袋井市月見の里学遊館」、「袋井市メロープラザ」等において、様々な年代の方々が文化に触れる機会・提供する機会を創出するとともに、コミュニティセンター等における市民の自主的な文化活動を推進します。また、小・中学校と連携し、子どもたちがホンモノに触れる体験や郷土の歴史等を学ぶ機会を提供するほか、文化・芸術や文化財関係者の交流による担い手の確保に加え、歴史資源の「保存」と「活用」のサイクルを確立します。

主な事業 月見の里学遊館施設管理・運営事業／メロープラザ管理運営事業／
郷土資料館維持管理・運営事業／袋井市こども交流館あそびの杜整備事業

2. 袋井ブランドの活用

魅力ある地域資源を活用した新たな観光コンテンツの開発や価値の創出を推進するとともに、観光施設の環境整備や特産品の開発・販売促進に取り組むことで、袋井ブランドの価値向上を図ります。また、「小笠山総合運動公園エコパ」でのアーティストライブ等を目的に県内外から本市を訪れる来訪者を市内の観光施設へ誘導し、遠州三山の歴史や文化をはじめとする本市の唯一無二の魅力と結びつけることで、まち全体のブランド価値の向上を図ります。

主な事業 袋井観光ルネッサンス事業(再掲)／特産品開発事業費補助金(再掲)／
エコパ来訪者をターゲットとした経済観光推進事業

3. マーケティングの推進

SNSを活用し、近隣県に対し身近で手軽に楽しめる本市の魅力を発信するとともに、インバウンド客やリピーターなど、ターゲット層を意識した戦略的マーケティングを推進します。また、市観光協会等の市内団体や近隣市町との連携により、滞在型観光や周遊の促進につながる高品質な観光コンテンツなど、「期待を上回る観光体験」の提供に取り組みます。

主な事業 袋井市観光協会支援事業／観光担い手育成事業／シティプロモーション事業／ふるさと納税事業

4. 担い手の充実と育成

市観光協会をはじめ、観光事業者や市民・ボランティア等、多様な主体を巻き込んで地域観光の活性化を目指します。また、魅力的な活動とスキル向上、達成感の提供などを通じて担い手のやりがいを高め、オピニオンリーダーの育成に取り組みます。

主な事業 袋井市観光協会支援事業(再掲)／観光担い手育成事業(再掲)

関連計画等

- 袋井市文化振興計画
- 袋井市文化財保存活用地域計画

政策 7. 取組 2. スポーツを活かした交流の促進

現状と課題

「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」など大規模スポーツイベントによる機運醸成により、スポーツへの関心が高まった一方で、コロナ禍によって市民のスポーツ実施率が低下し、特に働く世代(子育て世代)の実施率は減少の一途を辿っており、今後の動向を注視していく必要があります。また、子どもの体力低下や高齢化社会における健康維持への対応、パラスポーツの普及を通じた共生社会の実現に向けた取組など、あらゆる市民が気軽にスポーツを通じて交流できるよう多様性に応じたスポーツ活動の推進が求められます。

人々が気軽にスポーツに親しむためには、スポーツ施設を適切に維持管理し、安全・安心で、様々なニーズに対応できる利用環境を整えていくことが必要です。また、アスリート育成支援については、市スポーツ協会やスポーツ施設指定管理者、プロスポーツチームなどとの連携強化により、多くの市民がトップアスリートに触れる機会を創出するとともに、指導者やボランティアなどスポーツを支える人材の発掘と育成などの取組が必要です。中学校部活動は、少子化や多様な活動への参画、教員の働き方改革などの様々な背景を考慮し、地域展開に向けて、地域の受け皿や指導者の育成など計画的に取り組んでいく必要があります。

さらに、スポーツを通じた地域活性化を図るため、「小笠山総合運動公園エコパ」や「さわやかアリーナ袋井市総合体育館」を会場とした大規模な大会の誘致や開催支援、プロスポーツチームなどとの連携・協働により、市民のスポーツ観戦機会や様々なスポーツ交流の場を確保するとともに、スポーツを核とした商業振興、観光交流など、地域経済への波及効果や地域活力を創出する取組を推進していく必要があります。

取組指標

[]内の矢印は、それぞれ「上げていくことを目指す指標」、「維持していくことを目指す指標」、「下げていくことを目指す指標」を示す

指標名(単位)	現状値 年度	目標値 年度
成人のスポーツ実施率(週1回以上)(%) [↗]	46.5 2024年度	58.5 2030年度
市内の運動施設の利用者数(エコパを除く)(人/年) [↗]	775,139 2024年度	805,000 2030年度
スポーツチーム等の民間との連携事業数(件/年) [↗]	47 2024年度	65 2030年度

基本方針

1. スポーツを楽しむ機会の充実

年齢、国籍及び障がいの有無にかかわらず、多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち合い、支え合うまちを目指して、一人でも多くの市民が、スポーツに気軽に楽しく取り組み、生涯を通じてスポーツを身近に感じることができる環境を整えていきます。

主な事業 各種スポーツ教室・各種スポーツイベントの開催／スポーツ指導者派遣事業／アクティブ・チャイルド・プログラム事業

2. 多様なスポーツを支える場と人の充実

スポーツ施設環境の整備をはじめ、アスリートの競技力向上や指導者の発掘と育成を図るとともに、プロスポーツ観戦やトップアスリートとの交流を通じて、市民のスポーツへの理解、関心が高まるようスポーツ活動を支える環境を整えます。また、教育的意義も踏まえた部活動の地域展開に向けた受け皿づくりと、それらを地域全体で支える仕組みづくりにも取り組みます。

主な事業 公共運動施設・総合体育館・学校運動施設管理運営事業／スポーツ指導者連携強化事業／スポーツ選手激励事業／トップアスリート交流事業／中学校部活動地域展開事業(再掲)

3. スポーツの魅力による地域活力の創出

「小笠山総合運動公園エコパ」や「さわやかアリーナ袋井市総合体育館」を活用した大規模な大会の開催支援やスポーツ合宿の誘致、協定締結チーム等との連携によるスポーツ観戦機会の創出やスポーツを通じた様々な交流の推進、さらには、スポーツを核とした商業振興、観光交流の促進など、スポーツを活かしたまちづくりを推進し、地域活力の創出を目指します。

主な事業 スポーツ合宿補助金交付事業／スポーツ飯の開発／スポーツチームとの連携／各種スポーツ教室・各種スポーツイベントの開催(再掲)

関連計画等

- 第5次袋井市スポーツ推進計画

